

36.「東日本大震災を見て」

2011年3月1日 社会福祉法人 江刺保育園

東日本大震災が3月11日にありました。この震災によって多くの人たちの命が失われました。千年に1度の大きな震災であるとのこと。また、津波の被害にあった原子力発電所が破壊されそこから漏れた放射能が環境を蝕んでしまいました。人間にはまだこの原子力を制御することはできないということを発言し、原発を作ることを反対してきた人たちがいますが、その方たちの心配していたことがほんとうに起こってしまいました。今は、危険の中で作業されている方々の安全と、一時もはやい原子炉の収束を祈るだけです。

私たちが大丈夫だと思っていたものがことごとく破壊されてしまいました。今もなお非常に多くの人々が苦しみ、不安の中で避難生活をおくっています。私たちの社会は一人のひとの働きが、多くの人たちを支えている社会です。ですからこの震災によって一度に多くの命が失われてしまい、その人たちが支えてくれていた社会的の絆が崩壊してしまったのです。ですから流通が滞り、必要なライフラインが保てなくなってしまう。この震災が起こって、改めて私たちは一人ひとりが何かしら繋がっていることに気づかされるのです。

私たちは一人では生きることができない者であることを、こんな形で確認してしまうのは非常に辛いことです。私たちの社会は人と人との複雑で密接なネットワークが形成され、それぞれの役割が絶妙な支え合いによって成り立っている社会です。文明が発達すればするほどその繋がりは複雑になり、重要になるのです。このネットワークが一瞬のうちに破壊されてしまいました。これを再構築するためには、長い時間が必要になります。人々がお互いを理解し合い、信頼し合う体験を通してこのネットワークが造られるのです。

これを再構築するために、今の幼い子供たちの役割は非常に大切なのです。この子供たちが大人になりこの働きを担うのです。そのために私たちがしなければならないのが、いかなる環境が私たちのため必要なのか、どのような繋がりが必要なのかをしっかりと検証することです。子どもたちによりよい未来への目標を示すことが、今の私たち大人の役割だと思います。そのために人はどのような環境で、何をすべきなのか、どのような思いを抱き、どのような心を持つべきなのか、他者とどんな繋がりが必要なのか、等、人としての生き方を絶えず自問自答しながら生きて行くことが私たちに求められていると思います。



《いちごゼリー》材料

イチゴ1パック約300g
砂糖60g、
棒寒天(白)1本、
カルピス適量

作り方

イチゴは洗って、ヘタを取り鍋に入れて砂糖をまぶしておく。
寒天は水でふやかした後絞ってちぎっておく。
イチゴの鍋を中火にかけ、木べら等で静かに混ぜながら加熱する。
イチゴがやわらかくなってきたらマッシャー等でつぶしながら煮る。
イチゴがつぶれたら水50ccを加え水でふやかした寒天を入れて沸騰させ煮溶かす。
完全に溶けたら火からおろして荒熱をとり、バットに流し(暑さ2cm)冷やす。
固まったら桜型で抜いて深さのある皿に載せ、カルピスを注ぎ完成です。

